# 山鳥毛とは

国宝「太刀無銘一文字（山鳥毛）」は、鎌倉中期に作られた福岡一文字派の最高傑作と言われています。山鳥毛という号（呼び名）は、刃文が華やかで美しく、まるで山鳥の羽毛に似ていることから呼ばれるようになったと言われていますが、諸説あります。

山鳥毛は、戦国時代に、武田信玄の上野国（今の群馬県）侵攻で、所領を失った白井城主・長尾憲景から、同族の上杉謙信（当時は長尾景虎）へ贈られたものだと言われています。そして、さらに謙信から、養子の上杉景勝に引き継がれました。

景勝は、謙信の所蔵品の内から特に名刀を選び、「上杉景勝自筆腰物目録」というリストを作りました。さらにその中から、上秘蔵として特に優れたものを十口選びました。山鳥毛は、その中の一口です。

山鳥毛は、昭和 27 年（1952 年）、国宝に指定されています。

# 上杉謙信と上杉景勝とは

**上杉謙信（1530 年 –1578 年）**

越後国（今の新潟県）を中心に活躍した戦国武将です。合戦に強く、名将の呼び声が高い武田信玄とは五度も戦い、引き分けました。無類の愛刀家であり、多くの名刀を収集したと言われています。

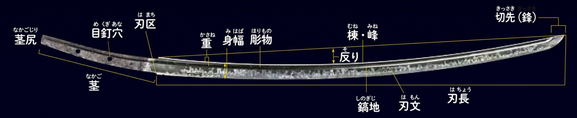
**上杉景勝（1556 年 –1623 年）**

越後国（今の新潟県）や、出羽国（今の山形県）を中心に活躍した戦国武将です。叔父の上杉謙信の跡を継ぎ、上杉家の当主となりました。豊臣秀吉に従い、五大老の一人として活躍しました。謙信から受け継いだ名刀を自ら目録に表し、その中の二口が現在国宝になっています。その内の一口が山鳥毛です。

# 鑑賞の仕方

刀は、全体の形である「姿」、材料の鋼からくる「地鉄（じがね）」、鍛錬によって生み出される「肌」、焼き刃によって作り出される「刃文」が鑑賞のポイントとなります。

「姿」からは「時代」を、「地鉄」からは「産地」を、「肌」からは「伝法や流派」を、「刃文」からは「流派や個人」の特徴をそれぞれ見出すことができます。




# 鑑賞してみよう

1. **姿を見る** — 全体の形である姿を見ます 刀身の反りや長さなどを観察します
2. **地鉄を見る** — 近くに寄り、鍛錬によって生じた肌の様子を観察します
3. **刃文を見る** — 地鉄と同様の見方で、焼入れによって生じた刃文を観察します
4. **茎を見る** — 銘や鑢目（やすりめ）、茎尻の形を観察します

**姿（すがた）** 身幅が広く反りの高い、堂々とした体配です。

**茎（なかご）** 茎は制作当初の姿を残した「生ぶ茎」ですが、作者等を示す銘文はありません。

**刃こぼれ** 鎺（はばき）元より少し上にある刃こぼれは、過去の戦闘時に受けた傷であると考えられます。実際の戦場において、この太刀が使われていたことを示す証拠です。

**彫物（ほりもの）** 表裏に彫られた棒樋は、刀身を軽量化し振りやすくするための工夫と考えられています。

**刃文（はもん）（匂出来（においでき））** 鎬にまでかかるほどの華やかな乱れ刃が特徴的です。大小の丁子刃（ちょうじば）が複合した重花丁子（じゅうかちょうじ）が幾重にも重なり、随所に飛び焼きが入ります。粒子の細かな「匂出来」の刃文を主体としながら、粒子の粗い「沸出来」の部分も所々に交じるなど、変化に富んだ作風です。

山鳥毛：瀬戸内市所蔵（写真：テレビせとうちクリエイト）
Sanchomo:Setouchi.City Collection(Photo:TSC Create)

刃長 79.1 ㎝、反り 3.3 ㎝
元幅 3.5 ㎝、先幅 2.2 ㎝、鋒長 3.3 ㎝